

## コミュニケーション 学部



コミュニケーション学部長  
コミュニケーション心理学科  
植村勝彦教授

専門：コミュニティ心理学  
1969年 大阪大学大学院文学研究科  
修士課程修了  
1975年 愛知県心身障害者コロニー  
発達障害研究所社会福祉学部研究員  
(～1986年まで室長)



言語コミュニケーション学科の  
左：坂将人さん(4年)  
右：鶴飼智子さん(4年)

# 「こころ」と「ことば」から コミュニケーション能力を 育成する。

コミュニケーション学部は、文化創造学部と共に、本学3、4番目の学部として2000年(平成12年)に誕生。今年3回目の卒業生を送り出します。21世紀は「コミュニケーションの時代」といわれ、人との関わりがますます重要になる中、心理学と言語という2つの領域から「コミュニケーション」にアプローチしていきます。これまでに学部から巣立っていった卒業生は1090人で、現在は1586人が在籍しています。

### 「コミュニケーション学」 草分け的な存在

**植村学部長** 僕は昭和62年、愛知淑徳短期大学(平成12年に募集停止)がコミュニケーション学科を新設した時から関わっているのですが、当時はコミュニケーションと付いた学科を持つ大学は全国でも2つ程度、短大ではゼロでした。その頃から心理学ブームが起きて人気が高まったため、愛知淑徳大学にも新設しようと、平成3年に文学部の中にコミュニケーション学科を設けます。これが発展して平成12年に3学科を擁する学部として独立しました。しかし、ビジネスコミュニケーション学科が16年にビジネス学部として独立したため、現在はコミュニケーション心理学科と言語コミュニケーション学科の2学科に再構成されています。

心理学は現在のように社会が不安になると必要性の高まる学問です。一方、言語はグローバル化、多様化に突入した今の社会に強く求められているものです。20世紀末から今世紀にかけて様々な意味で「コミュニケーションの時代」と言われていますが、本学のコミュニケーション学部は、この時代の要請に答える2つの学問分野が合体した学部だと言えるでしょう。

**坂田助教** コミュニケーション心理学科には専任の先生が15人おり、専門分野が少しずつ異なります。学生は1年生で基礎を学びますが、生理、認知、社会、発達、臨床と、専門の各論を幅広く、そして深く学べるのが特徴です。その上で自分の専門を決め、3年次からゼミに入ります。

**植村教授** 本学の心理は一番オーソ



ドックスな心理学科だと思います。臨床心理学のブームは依然続いています。心理学科を新設する大学を見ると、ほとんど臨床に特化、肥大化して、ほかの分野は形だけになっています。本学は臨床と同じウエイトで他分野も用意しており、学科でこれだけのメニューを揃えているのは珍しいと思います。特に生理心理学では、脳波計など様々な装置、計器が充実しているのが自慢です。

### 3言語を学ぶことも可能 言語コミュニケーション学科

**馮教授** 言語コミュニケーション学科には英語、応用言語、中国語、日本語の4つのコースがありますが、学生が自分で適正を見極められるように、1年生で全コースの「試食」をしても

## 言語コミュニケーション学科 馮富榮 (フォン・フーロン) 教授

専門：教育心理学、中国語  
1994年 名古屋大学大学院教育学研究科  
教育心理学専攻博士課程満期退学  
1995年 博士(教育心理学)学位取得



## コミュニケーション心理学科 坂田陽子助教授

専門：認知発達心理学  
2000年 大阪市立大学大学院文学研究科  
博士後期課程心理学専攻単位取得退学  
2000年 独立行政法人産業技術総合研究所  
特別技術補助職員  
2001年 博士(文学)学位取得



## コミュニケーション学部

### コミュニケーション心理学科

「こころ」から人間の関わりを科学する学科です。脳の仕組みと心の動きを研究する「生理・認知系」、人と人、集団、社会の結びつきを見つめる「社会系」、人の発達的变化や心理療法・テスト、カウンセリングなどを学ぶ「発達・臨床系」の3つの領域から、総合的かつ分析的に「コミュニケーション心理学」へ迫り、実習を通して体験的に学習します。

### 言語コミュニケーション学科

「ことば」から人間の関わりを創造する学科です。言語を武器に世界とコミュニケーションする能力を育てるため、授業の多くはネイティブ・スピーカーによる外国語で実施。英語・中国語・日本語・応用言語のスペシャリストを育成します。パソコンを利用したサイバーイングリッシュ、日本語表現技術の指導なども行います。

コミュニケーション心理学科の  
左：森島奈々子さん（3年）  
右：高村俊輝さん（4年）



らってから、2年生で自分に合ったコース、ゼミに進んでもらいます。しかしコースに決めても中国語や日本語の勉強もできます。このように、2つでも3つでも語学を勉強できること、先生がいなくてもパソコンで繰り返し発音の練習ができるなど、パソコンを使った語学学習に力を入れているのは全国的に珍しいと思います。

**植村学部長** 中国語のテキストは馮先生が作成されていますね。

**馮教授** ほかの先生にも手伝ってもらいましたが、ゼミ以外はすべて自作教材です。言語では外国語を教えるのはすべてネイティブの先生で、話す、聞く、書く、読む、翻訳という5つの能力を同時に伸ばせるようにカリキュラムを組んでいます。たとえば英語なら1年でサイバーイングリッシュを身につけ、2年でディスカッション、3年でディベートを学びます。コミュニケーション

能力を高めてほしいので、私のゼミでは中国語で演劇を行ったりしています。鵜飼さんは英語も中国語もペラペラで、TOEICもTECC(中国語コミュニケーション能力検定試験)のスコアも700近くあります。愛知淑徳大学を選んだ理由は。

**鵜飼さん** 中国語と英語を完璧に学びたかったからです。事前に調べた時、それができるのは愛知淑徳大学だけでした。在学中には中国とオーストラリアへ留学したのですが、1か月というまとまった期間、勉強ができて、満足のゆくものとなりました。中国へは3回行っていきます。

**坂さん** 僕が愛知淑徳を選んだのは、まず高校の恩師に「言語に松本先生というすごい先生がいる」と聞いていたこと。実際に授業を受けて納得し、2年次から松本ゼミに入っています。それと、英語教師を目指していたので英語教育を研究したかったことです。

しかし、実際に入ってから授業が面白いので、4つのコースの授業を全て受講しました。卒業時には190単位以上はいくと思います。授業は取っても取っても、次々に取りたくなる魅力があります。

### 入学時、臨床希望は9割も コミュニケーション心理学科

**坂田助教授** 森島さんはもともとカウンセラー志望でしたが。

**森島さん** 高校生の時にオープンキャン

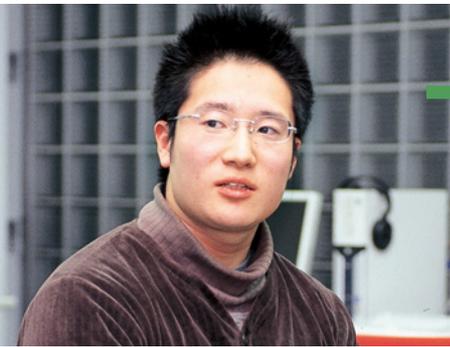
パスで大学を訪れ、是非心理学を学びたいと思いました。心理学イコール臨床、カウンセラーというイメージで入学しましたが、1年生で基礎を学んだ時、心理学は様々な分野から成り立っていることを知り、発達心理学に興味を持ちました。1年次から先輩の実験に参加者として参加しているのですが、設備や環境が整っていますね。実習科目が多いので、実践的な心理学を学ぶことができます。

**高村さん** 僕も高校の頃からユングやフロイト、河合隼雄などの本を読んで、臨床心理学を勉強したいと思っていました。2年間勉強して、やはり臨床へ進みましたが、臨床を学んだ上で、もともとの希望であった教師を目指しています。

**植村学部長** 心理の新生生の8〜9割は臨床を希望していますが、実際に勉強を始めると、ほかに面白い分野があることを知って徐々に分散し、3年生のゼミ選択時に臨床へ進むのは4割ほどになります。

もちろん、入学当初の目的通り、臨床心理士を目指して、大学院コミュニケーション心理学を希望する学生は多くいます。今年度から内部推薦制度が始まり、5人が大学院に合格内定しています。

**坂田助教授** 臨床心理学はナバスの学問なので、カウンセラーを目指してきたけど自分には合いそうにないと気付いた時、ほかに行ける分野があるのはいいと思います。



コミュニケーション心理学科4年(米倉ゼミ)

### 高村俊輝さん

卒論のテーマ「不登校問題について」。  
2つのボランティア団体に所属し、4年間充実したボランティア活動をする機会が得られました。障害のある子供や不登校の子供とキャンプに行ったり、適応指導教室のメンタルフレンド活動で不登校の子供と関わってきました。そんな経験から不登校問題を卒論のテーマに選びました。高校の公民の教員免許を取得しています。



左より  
コミュニケーション心理学科 坂田陽子助教授  
コミュニケーション学部長 植村勝彦教授  
言語コミュニケーション学科 馮富榮教授

コミュニケーション心理学科3年(坂田ゼミ)

### 森島奈々子さん

卒論のテーマ「乳児の高齢者の顔に対する識別」。  
核家族化が進んで、高齢者と乳児が接する機会が減り、高齢者の顔を見て泣く乳児が増えているそうです。これについて視覚的経験がどのように関わっているかを研究したいと思います。  
将来は保育士を目指しています。2年次に秘書検定2級を取得しました。



「コミュニケーションの時代」、社会の要請に応えられる  
2つの学問分野が合体。——植村コミュニケーション学部長  
心理学のいい点は、大学に入ってから  
ヨロイドンでスタートできるところ。——坂田助教授  
言語習得を通じ、コミュニケーション能力を高めてほしい。——馮教授

#### 習得した語学を生かして 社会で活躍——言語

**植村学部長** 卒業後の進路は決まっていますか。

**鵜飼さん** 私は台湾や上海に支社のある商社で営業として働きます。語学を生かせる仕事をしたかったの  
で、中国語と英語を使える会社を選びました。大好きな中国語を使い続けることができるので、大変満足です。  
**馮教授** その商社に営業として採用された方は鵜飼さんのほかは男性ばかりだそうですね。やはり語学力が認められたと思います。中国語コースには二十数名のゼミ生がありますが、そのうち7人くらいが語学が使えるという理由で商社を選んでいきます。

**坂さん** 僕は名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻に進学します。2年次から入った応用言語学コースは、言語学、英語教育学など様々なフィールドから物

事を見つめることのできる学際的なコースで、専門的な知識も幅広く得られたと思います。ここで学んだことを基盤に、大学院ではより知識を深め、将来は昔からの夢であった英語教師になりたいと思っています。

**森島さん** 中学生の時、保育士になりたいという夢を持っていて、いったんは諦めたのですが、発達心理学を学ぶうちに、やはり子供に関わる仕事がしたいと思うようになりました。子供や保育についての知識を得るため、今年8月に保育士免許の試験を受けるつもりで、現在は通信教育で勉強中です。

**高村さん** 在学中に高校の公民の教員免許を取得しましたが、今年度の教員採用試験は落ちてしまいました。将来は社会科か小学校の教師を目指しているので、通信で地歴の教員免許を取るつもりです。

4年間、障害のある子供や不登校の子供たちを対象にしたボランティア

活動をしていました。この経験を生かして子供と関わる仕事ができたらと思います。

#### どんな仕事にも生かせる 心理学の知識

**坂田助教授** オープンキャンパスで高校生から、卒業後どころへ就職できるかと聞かれるのですが、心理学を4年間学んでも、残念ながら即戦力にはなりません。就職先は一般企業が多くなります。

**植村学部長** そのため、高村さんのように卒業後、通信制大学で教員免許を取得する学生は結構いますね。また心理学を実際の場で生かせる資格、たとえば言語聴覚士や社会福祉士の資格を取得しようと、新たに専門学校に入り直す学生もいます。

**坂田助教授** 私のゼミにも卒業後、資格取得のために短大や4年制大学3年に編入する学生がいます。でも、卒業の段階でゼミ生に聞くと、

新・座談会シリーズⅢ  
開学30周年を迎えて◎学部を語る3

## コミュニケーション学部



言語コミュニケーション学科4年(馮ゼミ)  
鵜飼智子さん

卒論のテーマ「日中の食文化～肉まんについて～」。  
中国の南京師範大学に留学して中国語を学びました。その時、毎日食していた肉まん(包子)がとても好きで、歴史や由来を調べようになりました。日本の肉まんと比較してみると多くの発見があります。  
海外研修では、オーストラリアのキャンベラにも1か月滞在しました。



言語コミュニケーション学科4年(松本ゼミ)  
坂 将人(ばん まさひと)さん

卒論のテーマ「英語教育の意味～コミュニケーションという観点から考察して～」。  
中高で英語は必修科目ですが、なぜ全員が英語教育を受ける必要があるのか、さらに学習指導要領にある「実践的コミュニケーション」とは何か、それを実際の教育現場で生かすためには何を改革すべきかを追究したいと考えています。  
在学中に中高の英語の教員免許を取得。3年次に、アメリカのウエスト・バージニア大学に1か月間留学しました。



直接仕事に結びつかなくても、勉強したことはどんな仕事にも生かせると言ってくれます。森本さんと高村さんが先生になったら、心理学を学んでいない人と比べると、子供に対する関わり方は全然違うと思いますね。  
**植村学部長** 心理学は人やものの見方、考え方を学ぶ学問なので、実際の生活の中でも利用したり、プラスになることが多いと思います。

**馮教授** コミュニケーション学部には共通科目があるので、言語の学生が心理の授業を受けることもできます。  
**坂田助教** 他学部他学科向けの開放科目も増やしています。心理学は人間関係や仕事の場にも役立つところがあるので、多くの人に学んでほしいですね。

**馮教授** 私も心理学を学んできましたが、全く離れた今の分野にも、心理学の知識が生かされていると実感します。

**植村学部長** 馮先生は大学院で教育心理学の博士号を取られています。中国語教材の作成や学生への学習の動機付けなどに、心理学の知識が応用されているように思います。人間の心の動きをよく知っているのと知らないのでは、教材の出来ばえも違ってくるでしょうね。

### 熱心で家族的な 教育スタッフが学生をフォロー

**馮教授** 昨年12月に行われた学生参加の中国語スピーチコンテスト(日

本アジア航空主催で、言語コミュニケーション学科の学生が特別優秀賞をもらいました。

**坂田助教** 1年生がですか。

**馮教授** そうです。習い始めて数か月なのに、ちゃんと中国語で話していたので、審査員が驚いていました。また10月に40名ほどのゼミ生が中国語能力認定試験HSK(漢語水平考試)を受け、8級に6名が合格しました。

8級というのは中国語を駆使してビジネスができるレベルです。さらに6級に2名、5級7名、4級23名合格という成績を修めました。

**植村学部長** 優秀な学生が多いですね。言語学科がうらやましいのは、上達したかどうか分かりやすいことです。努力目標がはっきりしていて、成長の具合が目に見えて分かりますから。

**坂田助教** コミュニケーション心理学のいい点は、1年生からヨイドンで始められることでしょうか。大学に入ってから初めて接する学問なので、スタートラインは同じです。本学では積み上げ式でカリキュラムを組んでいるので、真面目に取り組んでいる学生の卒論は、有名大学の学生に引けを取りません。

**馮教授** 言語でも中国語は、スタートラインは同じです。やはり真面目な学生が多いですね。1年生の時、坂さんは入院しているのに授業を受けるために登校してきたことがありますが、でも台風で休講になってしまった

んですが(笑)。

スタッフも非常に熱心で、学生に対するフォローも徹底しています。学生がお昼にお弁当を持って研究室にやってくるので、食事をしながら英会話や中国語会話の練習をすることもあります。学生と先生の間はとても和やかですね。

**植村学部長** 心理の先生も熱心ですね。アットホームな雰囲気です。

**鵜飼さん** それは私も実感します。先生たちがきちんと答えてくださるので、質問のしがいがあります。

**坂さん** 4年前に僕が入院したことを馮先生が覚えていてくださいましたが、普通は名前も覚えてもらえないと思います。言語を習得する上で信頼関係は重要ですが、先生との人間関係が構築できる環境にあると思います。愛知淑徳大学を選んで本当に正解だったと思います。

**植村学部長** 学生が満足して卒業していつくれるのは嬉しいですね。

心理と言語には、心理言語学や言語心理学という2つが組み合わさった分野もあります。心と言葉は、共に人間の動きを表す近い領域のものだと言えるでしょう。将来は2つの学科の共通部分をドッキングさせて、双方からの協力のもとで、何か新しい学問が開発できるかもしれないと思っています。